





令和5年度 基本評価調書		所管部局	水産林務部	所管課	林業木材課		
施策名	林業の担い手対策の推進			施策コード	0710		
政策体系(中項目)	農林水産業の持続的な成長			政策体系コード	2 (1) C		
関連重点戦略計画等	知事公約 創生総合戦略 強靱化計画					事務事業数	9
特定分野別計画	北海道森林づくり基本計画						
SDGs					総合判定	概ね順調	
予算額(千円)	R 5	393,913千円	R 4	382,402千円	R 3	378,818千円	

施策目標	道内外からの林業への新規参入など、森林づくりを担う人材の育成・確保を進める。 北の森づくり専門学院(略称 北森カレッジ)において、将来の森林づくりを担う人材を育成する。					
現状と課題	<p>(地域の森林づくりを担う人材の育成) 人工林資源が利用期を迎え、今後、伐採や植林などの事業量の増加が見込まれる中、これらの作業を行う人材や事業体の役割はますます重要となっており、地域の森林づくりを担う中核的な人材の育成が必要である。</p> <p>(林業従事者の確保・定着の促進) 人工林資源が利用期を迎え、今後、伐採や植林などの事業量の増加が見込まれる中、これらの作業を行う人材や事業体の役割はますます重要となっている。 林業・木材産業の競争力強化に向け、林業労働力を安定的に確保する必要がある。</p>					
前年度二次評価意見	-					
対応状況	-					

〈主な取組〉

今年度の取組	<p>(地域の森林づくりを担う人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北森カレッジの入学者を道内外から広く確保するため、PRキャラバンや高校・大学等への訪問、道外での入学試験などを実施。関係団体と連携し、生徒の意向や適性に応じた就業先の確保に努めるとともに、様々な地域・分野におけるインターンシップや進路相談等を通じ、生徒が希望する就業先を選択できるよう支援する。 <p>(林業従事者の確保・定着の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会との連携による道内外への林業の魅力発信などの取組を進めるとともに、若手林業従事者のネットワークの強化等による定着促進、支援センターと連携した体系的で段階的な研修の実施等による林業従事者の育成を図るなど、新規就業者の確保や従事者の育成・定着を促進する。 					
実績と成果	<p>(地域の森林づくりを担う人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北森カレッジにおいて、インターンシップや林業・木材産業関係企業が参加する合同企業説明会の実施等を通じた、生徒の意向や適性に応じた支援により、卒業生が道内の林業・木材産業企業等へ就職した。(R3:30名、R4:34名) ・北森カレッジにおいて、オープンキャンパスや高校・大学等への個別訪問、道外での入学試験などを実施し、道内外からの入学者を確保した。(R3:40名、R4:40名、R5:34名) <p>(林業従事者の確保・定着の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会において、地元高校生などを対象とした現場見学や就業体験などを実施し、林業従事者の確保の取組を促進した。(全道14地域で実施) ・若手林業従事者のネットワークを活用した勉強会や交流会を実施し、林業従事者の定着に向けた取組を促進した。(R4 勉強会・セミナー等:4回、R5 若手従事者の定着促進を図るセミナー等開催予定) 					
参考HP①	水産林務部林務局林業木材課 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/index.html					
参考HP②						
参考HP③						

<指標分析> ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	人	R1年度	R2年度	R3年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
林業の新規参入者数	目標値		160.0	160.0	160.0	160.0	83.8%	C
	実績値		135.0	158.0	134.0	—		

設定理由 林業担い手の確保を推進するうえで林業就業者の人数を把握する指標であり、課題である森林づくりを担う人材の育成・確保に向けた取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期 隔年調査、翌年10月公表 **出典 (根拠計画等)** 北海道総合計画、北海道森林づくり基本計画、北海道水産林務部「林業労働実態調査」(実態調査公表年以外は労働力調査を基に水産林務部において算出)

分析 (主な取組と成果)

首都圏在住者や林業への転職希望者の関心を高めるため、農政部・水産林務部・総合政策部との部門横断的な施策(北海道移住交流フェアへの出展)を通じ、林業の仕事内容や魅力を発信している。

指標名②	増加	%	R1年度	R2年度	R3年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
通年雇用者割合	目標値		56.0	57.0	58.0	77.0	124.1%	A
	実績値		67.0	59.0	72.0	—		

設定理由 林業担い手の確保を推進するうえで林業就業者の雇用形態を把握する指標であり、課題である林業労働力の安定的確保に向けた取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期 隔年調査、翌年10月公表 **出典 (根拠計画等)** 北海道森林づくり基本計画、北海道水産林務部「林業労働実態調査」(実態調査公表年以外は労働力調査を基に水産林務部において算出)

分析 (主な取組と成果)

地域の林業事業者や教育機関、市町村などの関係者と連携した協議会(H30~14振興局で実施)において、就業環境の改善に向けた取組などを進めている。

指標名③			R3年度	R4年度	R5年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
	目標値						—	—
	実績値							

設定理由

指標公表時期 **出典 (根拠計画等)**

分析 (主な取組と成果)

指標名④			R3年度	R4年度	R5年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
	目標値						—	—
	実績値							

設定理由

指標公表時期 **出典 (根拠計画等)**

分析 (主な取組と成果)

指標名⑤			R3年度	R4年度	R5年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
	目標値						—	—
	実績値							

設定理由

指標公表時期 **出典 (根拠計画等)**

分析 (主な取組と成果)

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	<p>(課題) 本道では全国を上回るスピードで少子高齢化が進行する中、事業量の増加が見込まれる伐採や伐採後の着実な植林といった森林整備を着実に進めるためには、道内外から幅広い人材の確保が必要。</p>
	<p>(取組) 幅広い関心層に対する魅力発信に向けて、一次産業の関係部局との連携に加えて、移住関連施策(総合政策部)と連携した取組により、本道の広大な森林で働く林業や、地域での暮らしの魅力を発信。</p>
緊急性 優先性	<p>(課題) 本道では高齢者の占める割合が依然として高く、今後、林業従事者の急激な減少が懸念される中、事業量の増加が見込まれる伐採や伐採後の着実な植林といった森林整備を着実に進めるためには、これらを担う人材の確保と育成が急務。</p>
	<p>(取組) 林業事業体の経営力の強化に向けた研修会の実施や、森林づくりを担う人材の育成・確保に向けたインターンシップやキャリアアップ研修などへの支援の充実・強化、林業・木材産業の即戦力人材を育成する「北の森づくり専門学院」の生徒を支援する「緑の青年就業準備給付金事業」の予算を安定的に確保することを国へ要望。(R5年5月、6月)</p>

〈取組分析（その他の統計数値等）〉

□ 成果指標で課題への対応を説明済

統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
林業従事者数（人）	4,253 (H29)	4,269 (R1)	4,208 (R3)
分析等			
<p>(課題) 林業従事者数は、近年概ね横ばいで推移。造林分野では従事者は減少傾向。 (造林 H23:1,978人→R3:1,510人)</p>			a
<p>(分析等) 林業従事者は、全国では減少傾向にあるが、道内は概ね横ばいで推移。(全国H22:5.1万人→R2:4.4万人) 林業従事者の確保と定着に向けた取組に加え、造林作業における作業負担の軽減を図るため、機械化や軽労化を推進する。</p>			
統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
新規就業者数（人）	159	135	134
分析等			
<p>(課題) 新規就業者の安定的な確保が必要。</p>			b
<p>(分析等) 幅広い関心層に対する魅力発信の取組に加え、北森カレッジにおける入学生の確保と即戦力となる人材の育成、着実な就業に向けた取組を推進する。</p>			
統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
<p>(課題)</p>			
<p>(分析等)</p>			

〈総合判定〉

指標判定	B	連携状況	○	総合判定	概ね順調
		緊急性・優先性	○		
		その他の統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

(-)

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	北森カレッジの入学者を道内外から広く確保するため、北森カレッジ独自のカリキュラムをSNSなど多様なツールにより積極的に発信するとともに、道内高校への働きかけを強化するほか、社会人を対象としたオンライン面接による入試を新たに実施。国の緑の青年就業準備給付金事業の活用により生徒の修学時の負担軽減を図るとともに、インターンシップや就業相談を通じ、生徒の意向や適性に応じた就職先の確保に努め、道内各地への着実な就業に取り組む。
	②	本道の森林づくりを担う人材の確保に向けて、道内外の関心層に向けた林業の魅力発信や就業体験の実施により、新規就業者の確保に取り組むとともに、体系的かつ段階的な研修により従事者のキャリアアップを図るほか、作業負担の軽減と労働安全の確保により安心して働き続けられる就業環境の整備を図る。
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策評価	<p>【施策目標の達成状況】</p> <p>総合計画に掲げる、林業・木材産業の振興を図り、資源の循環利用を進める森林づくりのため、林業従事者の確保・定着の促進が重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和5年度 事務事業評価調書				施策名	林業の担い手対策の推進	施策コード	0710
----------------	--	--	--	-----	-------------	-------	------

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度からの 繰越事業費 (千円)	事業費 (千円)	うち 一般財源	執行体制			フル コスト (千円)	一次政策評価		二次政策評価意見
									本庁	出先機関	人工計		対応 方針 番号	方向性	
0631	-	事務	林業機械化の推進に関すること(低コストな機械作業システムの構築を含む)	森林作業の機械化の促進のため、必要な調査等を行う事務	林業木材課		0	0	0.5	1.5	2.0	15,680			
0632	-	事務	担い手対策の企画・立案・実施に関すること	林業労働に従事する者の育成・確保、技術及び技能の向上及び福利厚生の充実を図るために必要な対策の企画・立案並びに新規就業者の確保に向けた通年雇用化や就業環境の改善などを促進する事務等	林業木材課		0	0	4.0	1.9	5.9	46,256			
0633	-	一般	森林整備担い手対策推進費	林業労働者の安全衛生の確保、技術技能の向上、福利厚生等の充実等に資する事業の実施	林業木材課		105,480	104,000	1.0	2.7	3.7	134,488	②	改善(取組分析)	
0634	-	一般	林業就業促進資金貸付事業に関すること	新規就業者等に対する林業就業促進資金貸付に関する事務	林業木材課		3,751	0	0.1	0.0	0.1	4,535			
0640	-	事務	林業事業者等の振興対策等に関すること	林業事業者等の振興に係る施策の立案や林業事業者の育成・指導・研修に関する事務 林業事業者登録制度に関する事務	林業木材課		0	0	1.0	0.0	1.0	7,840			
0642	-	一般	緑の青年就業準備給付金事業費	北の森づくり専門学院で専門的な知識と技術を習得する学生に対し、給付金を支給する事務	林業木材課		124,602	0	0.3	0.0	0.3	126,954			
0643	-	一般	北の森づくり専門学院管理費	北の森づくり専門学院における校舎・地域における講義・実習の運営や学生募集のための情報発信に関する事務	林業木材課		129,005	0	20.1	0.0	20.1	286,589	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書<二次政策評価>参照
0644	-	維持費	北の森づくり専門学院管理費(維持費)	北の森づくり専門学院における校舎施設の整備に関する事務	林業木材課		26,232	0	0.1	0.0	0.1	27,016	①	改善(取組分析)	
0645	-	事務	森林整備等支援事業費(市町村の体制強化)	「森の魅力発信し隊」による雇用拡大事業	林業木材課		4,843	4,843	0.4	0.0	0.4	7,979			
											0.0	0			
											0.0	0			
											0.0	0			
計						0	393,913	108,843	27.5	6.1	33.6				

